

南吉ゆかりの地を巡る おすすめのモデルルート

南吉の里エリアには、でめし広場や岩滑八幡社など南吉ゆかりの地がたくさんあります。南吉が愛したふるさとを巡るモデルルートの詳細はWEBサイトへ！



南吉の養家(新美家)

なんきちのようか(にいみけ)

南吉の生母りぬの実家。当時8歳で祖母志もの養子となるが、寂しさから数ヶ月で渡辺家に戻った。童話「小さい太郎の悲しみ」などに登場。／公益財団法人かみや美術館 分館(見学要予約)

南吉の生家(渡辺家)

なんきちのせい(わたなべ)

南吉が生まれ育った家。多くの人が往来した旧街道沿いで、父は畳屋、継母は下駄屋を営んだ。家屋内で、解説アナウンスを聞きながら当時の雰囲気味わえる。名鉄半田口駅より徒歩5分。



まるで童話の世界への入り口のような記念館の建物はゆるやかな里山の丘陵をイメージした設計。

童話「手袋を買いに」の帽子屋を再現した館内の図書室。ぎつねもあちこちに。



新美南吉記念館

にいみなんきちきねんかん

童話『ごんぎつね』に登場する「中山」の地に建つ、新美南吉を顕彰する記念文学館。建物を芝生で覆い自然や風景との調和を目指した半地下構造が特徴的。館内では、自筆原稿、日記、手紙などの資料とともに、南吉の生い立ちや作品のジオラマを展示する。隣接する童話の森には『権狐』草稿碑もあり、南吉文学に浸りながら森の遊歩道散策を楽しめます。

心に生き続ける物語を残した 童話作家、新美南吉。

新美南吉は、半田市岩滑で生まれ育った児童文学作家。代表作『ごんぎつね』は、全国の国語教科書に採用されています。29歳でこの世を去るまでに、ふるさと半田を舞台に繊細な感性が溢れる情景描写と温かみのあるテーマの作品を多数執筆しました。

半田市岩滑出身！

日本児童文学を代表する作品！



ごんぎくん
新美南吉童話イメージキャラクター。帽子と手袋がトレードマークの南吉の弟子。

ページ掲載情報をさらに詳しくご紹介！
WEBサイト
「半田市観光ガイド」
▶南吉の里エリア



新美南吉の
ふるさと
半田

ii kamo!
Handa
nankichi
no sato

童話『ごんぎつね』の世界が広がる！

南吉の里 エリア

新美南吉の生まれ育ったふるさと岩滑(やなべ)。『ごんぎつね』の舞台「中山」の地から、物語のかけらを探す旅へ。

「ごんぎつね」の
ワンシーンを再現！

300万本の彼岸花

300まんぼんのひがなばな
岩滑地区の「矢勝川堤(やかちがわつつみ)」では、秋になると全長1.5kmにわたり約300万本の彼岸花が咲き誇る。開花時期には「ごんの秋まつり」を開催。真っ赤な絨毯を敷いたような幻想的な風景に毎年約10万人が訪れる秋の風物詩。



新美南吉記念館にある「ごんぎつね」のワンシーンを再現した六地藏。



南吉の養家(新美家)

天然温泉 まるは
ごんぎつねの湯

半田中央IC
(JCT)

至名古屋

新美南吉記念館
cafe & shop ごんの贈り物
新美南吉記念館駐車場
57台、身障者用2台、バス専用3台
営業時間のみ利用可



地酒「國盛大吟醸」を使った
ふくよかな風味のモドレーヌ

いいかもポイント
ii kamo! Hando

パティスリー ラ・ミモザ

ばていすりーら・みもざ

小高い丘の上に建つ地域で評判の洋菓子店。店名のミモザが春に黄色い花を咲かせると、まるでファンタジーの世界。ショーケースにはパティシエこだわりの色とりどりの洋菓子が並ぶ。

天然温泉で
湯ったり♪



名物の巨大な
エビフライ！



地域の想いから
生まれた景色

地域ボランティアが育む 南吉の里の彼岸花群生

『ごんぎつね』の一節「ひがな花が赤い布(きれ)のようにさきつづいていました」を再現しようと始まった地元住民による彼岸花植栽活動。30年近くかけ、今では全国有数の彼岸花群生地。にきれいに咲かせるため、地域ボランティアが一年を通して維持管理を続けています。

ごんの秋まつり GON NO AKIMATSURI

「ごんの秋まつり」では、花嫁行列やライトアップなど彼岸花を楽しむイベントを多数開催。9月下旬～10月上旬。



天然温泉 まるは ごんぎつねの湯

てんねんおんせん まるは ごんぎつねのゆ

天然温泉が楽しめる日帰り入浴施設。地下1500mから湧く59.2℃という高温源泉を生かした滝つぼ湯や露天風呂が人気。まるは食堂名物の巨大エビフライも食べられる。



岩滑の氏神、岩滑八幡社。童話「狐」「久助君の話」などに登場する。



ぎつねのオブジェがあるベンチ。いっしょに権現山を眺めてみて。